

地域医療を考えるシンポジウム 「今、救急医療体制が危ない!」

平成19年10月3日(水)

糸魚川市民会館



パネラー 糸魚川市医師会長 相沢哲郎さん
糸魚川総合病院長 樋口清博さん
糸魚川市長 米田 徹
糸魚川市民 宮田孝男さん
山岸勝三さん
山田教子さん
コーディネーター ひまわり内科院長 森田 英さん

およそ5百名の聴衆を迎えて、冒頭に森田英さんから今回のシンポジウムを企画したきっかけ、糸魚川市の二次救急の危機を迎えている状況についてお話がありました。6月の「ビーチホールまがたま」での医療シンポジウムでの市民の反響の大きさがシンポジウム企画のきっかけとなり、地域の医療をなんとかしたいという20数名の実行委員の骨折りでこの企画が実現したそうです。

その後、3名の市民代表のパネラーにより、それぞれの体験を交えて「循環器専門診療の必要性」「一人一人の市民の心と命を大切に」「心配な医療関係者の過労」と題してお話がありました。どれも切実な経験談を交えての思いを語られていました。

◇宮田孝男さん

2度の大手術を経験した立場から、地域医療、特に循環器医療の重要性を切々と訴えていられました。病気を抱えた市民にとって、現在の糸魚川市の医療事情がいかにか不安な状態であるかを改めて認識いたしました。

◇山岸勝三さん

お話しの中で印象的だったのは、姫川病院が閉院となった今、石川県内灘町にある金沢医科大学に通っていて、内灘町は人口2万8千人の町であり、糸魚川市でも民間が駄目であれば、公設でも病院の建設を考えて欲しいという言葉でした。

勿論、公立病院を建てたからといって医師不足が解消するわけではありません。県立病院でさえ医師不足、経営難に苦しんでいる現状があります。

◇山田教子さん

ご自分が患者の立場で体験した医療関係者の激務を訴えて、「豆腐、玄白、稚児の舞」という糸魚川市の親からの言い伝えをたとえに、糸魚川市本来の良さを、安全安心の住みよい糸魚川市を保ちたい思いを、静かに訴えていられました。山田さんは今回のシンポジウムの実行副委員長でした。

続いて、相沢医師会長、樋口糸魚川総合病院長、米田市長がそれぞれの立場で糸魚川市の現状とそれぞれの取り組みをお話しされました。

市長の話は、糸魚川市の具体的取り組みについて伝わりにくかったかなあと思いました。簡潔に要点のみをお話しされた方が、理解しやすかったのですが、市長の地域医療に対する様々な思いが伝わってくるお話しではありました。

次は、「救急医療を続けていくために」と題打って総合ディスカッションが行われました。全体的に時間が足りない感じで、もう少し色々本音が出るところまでやって欲しいなと思いました。

時間が押している中での質疑応答では、病院関係の家族の方が質問に立ち司会者の「1分間お願いします」という要求でしたが、一般の方があのように凡そ5百人もいる会場で要領よくまとめて話すことは不可能に近いものがありますね。少し長くなったら「1分間お願いします」「次の方にマイクをお渡しください」となってしまうました。伝えたいことが伝えられなかったのではと少し気の毒でした。その方の最後は「皆さん仲良く・・・ね」で終わったのは人柄でしょうか。

最後にコーディネーターであるひまわり内科院長の森田先生の弟さんである参議院議員森田高さんが、緊急発言として「医療再生」を訴えて活動している立場で壇上に上がり発言されました。

当然政治的な立場（民主党）での発言ですから、政治色が強くなるのは仕方ありませんが、医師でありながら医療問題を追及するために国会議員になった方だけに、短い中に為になるお話しがありました。じっくりお話を聞いてみたいなと思わせる内容でした。

今後も継続してこのシンポジウムを開催したい旨の発言があって、閉会となりました。このような会を企画開催されました森田先生始め実行委員の方々に心よりお礼申し上げます。

〈 感想 〉

市民が医療問題に関心を持ち、患者となる立場で適切な受診態度を保つことが、限られた医療施設・スタッフでの地域医療を維持していくことに大きな役割を果たすということですから、このようなシンポジウムが繰り返し開催され、市民の意識が高まることは、重要な意味を持ちます。

ここでいう「適切な受診態度」とは、

- ①出来るだけ時間内診療を受ける
- ②ホームドクターを持つように心掛け、1次医療はホームドクター、2次医療は糸魚川総合病院というように、適切な段階の適切な受診を心掛ける。

- 1次医療 入院を必要としない医療
- 2次医療 入院を必要とする医療
- 3次医療 高度な治療を要する医療
 - 1次救急 風邪、発熱、腹痛など
開業医、大学医が糸魚川総合病院に出張して担当
平日 PM6:00～10:00
土曜日 夕方まで診療している医院へ
日曜日 AM8:30～12:30
 - 2次救急 直接命に関わる急病 脳卒中、心筋梗塞、吐血、大けがなど
昨年3月までは糸病と姫病が、ほぼ2分して担当
その後、糸病の比率が増えて本年4月より全ての日で糸魚川総合病院が担当

- ③軽症での救急車利用はなるべく控える。といっても、必ずしも個人が判断できるとは限らないので、それぞれの判断の範囲でということですが。

糸魚川市での地域医療体制の確保のためには、

- ① 医療環境の整備による医療スタッフの確保。
- ② 医療スタッフの過重労働の軽減。
- ③ ①②のためには、医師会、病院、行政、市民の連携が不可欠。
- ④ 国の医療政策への働きかけは、参議院議員森田高さんの緊急発言であったように、糸魚川市として中央に働きかけていく必要がある。行政は国・県との連携が重要。

という辺りが今回のシンポジウムで再確認されました。我々市民もそれぞれの立場で何が出来るかを日頃よりしっかりと考えること、日常の健康管理を含めて生活から整える必要も感じました。